

令和6年度 島根県高等学校青少年赤十字メンバー春季協議会

会場 出雲市民会館

全体会



次の2点が報告事項です

1. 国際交流事業(平田高校)

交流の様子の動画を使用して報告され、同じ志をもった海外メンバーの活動を初めて知ることができた。

2. 全国スタディー・センター(松江工業高校)

リーダーシップとコミュニケーションについての意見交換で、どんな小さな活動も大きな活動につながるということが印象に残った。

交流会



各ブースに分かれ、学校ごとに代表者が昨年度の活動を発表し、情報交換した。時間内にわかりやすく簡潔に伝えられるように、事前練習をして臨んだ。回数を重ねるごとに納得のいく説明ができた。他の学校では、子供からお年寄りまで楽しめる世代間交流イベントを企画したり、学園祭でアイスクリーム販売をして売り上げを寄付したり、様々な工夫を凝らした活動の発表を知ることができた。



講演会

『能登半島地震での赤十字のこころのケア活動について』
益田赤十字病院 俵 美由紀さん



世界規模のパンデミックや各地で頻発する自然災害や戦争など、想像も出来なかった時代を生き抜いている事自体がすばらしい。災害時にストレスで身体や思考等が変化することは当然かつ正常な“あたりまえ”の反応であり、むやみに自分を責めて(サバイバース・ギルト)はいけないという言葉が印象的であった。

生き抜くためには知識だけでなく、それを基にした体験や想像が大切だと再認識した。また、日頃の積み重ねが、いざという時に命を守ることから、意識して生活すべきだと思った。

～次年度の確認事項～

今年度、昨年に引き続き研究発表をすることが決定。昨年を超える研究発表を、新メンバーみんなで協力し完成の実践に努める。